

No. 1207

海の交通安全

—東京湾—

世界一過密な東京湾の入口、浦賀水道を中心に2月25日からコンピューターを使った世界初の海上交通管制が実施された。海上保安庁は東京湾の航行安全を図るため、湾全域をレーダー網で包み、コンピューターと連動させて交通管制をする〈東京湾海上交通情報機構〉づくりを進めてきたのである。

年々過密がひどくなる東京湾の中でも、出入船舶が集中する浦賀水道は特に混雑がひどく、一日平均の交通量は約860隻。朝夕のピーク時には一分に一隻の割だという。このため海難事故も少なくなく、東京湾内を通行する船舶の情況を把握できる施設の必要が痛感されてきた。

完成した海上交通センターは浦賀水道を見おろす丘の上にあり、海上レーダーと大型コンピューターを駆使して年中無休。船舶の速度違反、航路からの飛び出し、ニアミスなどの東京湾内の船舶の事故はほとんど無くなるものと期待されている。

外車ブーム

S Lブームが去ったいま、子供達の間では外車がブームとなっている。道路沿いにある中古外車販売店にはカメラを手にした小、中学生が押しかけている。たまりかねたある販売店ではサービスに子供たちを交代で店内に入れ写真撮影させている。店内はチビッ子カメラマンの撮影会場に早変り。決められた時間内で少しでもカッコのよい写真を取ろうとプロ顔負けの奮闘ぶり。東名高速道路に架かる陸橋にも子供たちが外車を追って並ぶ。いつ目当ての車が走ってくるかわからないとあって中には弁当持参で待っている子供もいる。目当ての車が走ってくるとせまい陸橋の上を右へ左へととびまわる。

ブームの原因は「少年ジャンプ」に連載されている「サーキットの狼」という車を主題にした漫画である、作者の池沢さんも大変なカーマニア、池沢さんの話「僕の漫画が連載されてから半年ぐらいでこの現象が見られた。ここまでくると危険です。自動車事故がかえって心配になっちゃった」。

人気の車はミュウラー、ランボルギーニ、カウンタック、マセラティなどイタリアのスーパーカーと呼ばれる手作りの車、子供達の間では情報交換がさかんで目當の車が入荷されるといっせいにその店に集まる。なんとか撮影しようと歩道まで占拠信号待ちの車まで取り囲んでしまい、ついにパトカーまで出動、いやはやすざましい外車熱だ。